武藤元帥の容態 憂慮すべき病狀

朝來折るが如き見舞客で殺到

二十七日午前八時 關東軍司令部發表

武藤元帥其後の病狀は二十七日午前零時體溫三十七度四分、脈搏百二十、同午前三時體溫三十八度、脈搏百五十、同六時體溫三十七度脈搏百五十三にして脈搏漸次細弱頻數となり憂慮すべき病狀にあり（號外再錄）

憂愁の色濃く

けふの武藤大使官邸

武藤元帥の病勢險惡を傳へられた二十七日、總領事館内の大使官邸は朝來驅けつける日滿名士達の見舞客で混雜を來たした、自動車は入り代り立ち代り靜々と辷るやうに疾走してゆく、見舞の人々いづれも憂色をたゝへて玄關先から咳一つ聞えぬ物靜けき中に姿を消してゆく、忽ち幾十台の自動車が廣い邸内にずつと居並びいづれも元帥の病狀を氣遣

ふものの如くけふの大使官邸は全く悲痛の色にとざされてゐる、元帥の病室は奥十疊の洋室を日本間に改造した一室で枕頭に牛けかへられた花にも物かなしさが漂ひ憂愁の色木の香新な官邸に充ち充ちてゐる

畏くも陛下

御懇篤な御見舞電

陸軍省から名醫急行

武藤元帥二十七日午前三時の容態は依然二十六日午後軍當局發表の病狀が持續され居るものの如く小磯、岡村正副參謀長始め軍、大使館の首腦者は殆ど枕頭に詰切つてゐる

畏くも　天皇陛下には廿六日午後十時御懇篤なる御見舞電を賜ひ、新京郵便局長は恐懼直ちにこれを捧戴して官邸に馳付け　聖旨を傳達すれば病衰の元帥はやゝおら頭を拾げて暫し感涙に咽んだ、軍當局では二十六日午後大連滿鐵病院より守中博士を招致したが博士は飛行機で急行し元帥の枕頭に詰切つてゐる、内地でも非常に憂慮し殊に陸軍省は二十七日名醫を新京に急行させる旨の電報を寄せ、又各方面多數の見舞電が届いてゐる

二十六日夕、天皇、皇后、皇太后三陛下に於かせられては、元帥の病狀を聞召され御軫念あらせらるゝ旨宮内省發電に接し又特にお見舞として果物を御下賜相成つた、又同日徐秘書官、工藤侍衞官を司令官々邸に派し鄭重に見舞の辭を呈した

伊藤軍醫部長以下軍醫部員は一同元帥の病床に侍し看護に萬全を期してゐる、滿鐵大連醫院長守中博士は西岸博士を伴ひ二十七日朝東京出發飛行機で京城に來り列車に乘替へ新京に來る途中にあり（號外再錄）

三木一等軍醫正、竹内二等軍醫は荒木陸相よりの見舞として二十七日朝東京出發飛

銀鷹號で

林警務局長等來京

關東廳警察機銀鷹號の飛來は都合に依り中止されてゐたが武藤長官の病狀急變の爲林警務局長水谷高等課長同乘小城部長操縱にて二十七日午前九時周水子出發途中大石橋奉天を經て午後二時新京へ到着したが二十八日は同軍號に森本警務課長同乘飛來の豫定である

時局後援會の見舞ひ

新京時局後援會長荒木章氏（目下赴連中のため代理稻葉賢一氏）同副會長影崎仙英、島名福十郎、在郷軍人聯合分會長四戸友太郎、同副會長下德直助の諸氏は二十七日午前十時打伴れて司令官々邸を訪ひ時局後援會を代表して親しく見舞を述べた

聯盟の對支協力委員會

漸く動き出す

宋子文の暗躍を警戒

〔東京二十七日發國通〕帝國政府は曩に目下渡歐中の宋子文の策謀による列國の對支援助政策に對し斷乎反對的意思表示をなすと共に今回同じく宋子文の暗躍の結果聯盟の對支協力委員會は委員を支那に派遣することに決定し、これに對しても右委員會が從來の例に鑑みるも必然的に支那の政治的援助をなすものとして聯盟の新事務總長アベノール宛嚴重なる警告を發した、即ち外務省はライヒマンの今日迄の支那に於ける不謹愼なる活動に鑑みライヒマン派遣中止方を提議したものである、然るに今回聯盟側より帝國政府へ送り來れる回答によれば

一、對支協力委員會は既に前例もあることにして其の活動は實施範圍も勿論事實的限界に止まるべきものなれば日本政府の抗議を受くべき筋合のものに非ず

一、ライヒマンの態度に就いても勿論政治的範圍には亘らざる樣注意すべきも日本政府から兎や角の指圖を受ける樣な必要はない

其の態度頗る誠意を缺けるものである、因つて帝國政府としては日本側の要望を一蹴して飽く迄聯盟は一方的に支那に對する活動を行ふに於ては隣接國として支那の動向に緊密なる利害關係を有する事實に鑑み且又我國の聯盟脫退せる趣旨にも鑑み飽く迄聯盟の對支活動を阻止すべく對策を講ぜんとしてゐる

藏相陸相と會見後

軍事豫算を語る

〔東京廿六日發國通〕高橋藏相は荒木陸相と會見後左の談話をなした

軍の豫算が多くなるか、否かまだ判らぬ、絕對に必要ならば、多くなつても出さねばなるまい、軍部も今の財政狀態をよく知つてゐる故無理な要求をなすことはあるまい、日本の軍事豫算は少し膨張しても軍縮會議があの通りだから、各國共餘り氣にすまい、日本に對する債權國が多少氣に病むかも知れぬが日本は債務で外國へ迷惑をかけたことのない國故、之も餘り意に介することはない、財政問題に種々議論があるが、結局國民の頭へかゝることだ故濫りに増税すべきでない、財政の將來を少しも悲觀してゐない

成果無く終る

世界經濟會議

廿七日最終日々程

〔ロンドン廿六日發國通〕去る六月十二日開會以來波瀾を極めた經濟會議は事實上殆んど何等の成果を舉げずに愈々廿七日午前十時からの本會議を以て大團圓となることとなつたが、二十七日午前午後に亘る最終本會議の日程は左の通りに決定した

一、通貨移入委員會の報告（報告委員佛のボンヌ藏相）

二、經濟通商委員會の報告（報告委員英國のランシマン商相）

三、休會中の經濟機關其他に關する十六ケ國幹部會の報告

四、一般討議

五、マツク議長の演說

尚一般討議には九ケ國代表が發言を通告して居るが日本代表はまだ通告して居ない

五、一五事件 陸軍側公判（續）

公訴事實匂坂檢察官陳述

茲に於て古賀清志及中村義雄は井上昭等の後を承け成るべく多數の同志を糾合して蹶起し集團的直接行動を遂行し以て國家改造の機運を促進せんことを企劃し會て連絡したることある陸軍部内の一部青年將校等に對し共に蹶起せんことを慫慂する所ありたるも之に應ずる者なかりしより豫て面識ありたる被告人篠原市之助等士官候補生中に同志の者あるを知り共に之が實行に當らんことを企て先づ同人等に會見せん思し同年三月中旬頃陸軍步兵中尉安藤輝三に對し被告人篠原市之助等との會見につき依賴する處あり、依つて篠原市之助は昭和七年三月十八日頃、安藤輝三より陸軍將校が來る三月二十日同人所屬の步兵第三聯隊に於て士官候補生に面會したき希望を有する旨傳へられ、同日之を各被告人等に告げ一同協議の上、宜被告人坂元兼一を代表者として海軍將校に面會せしむるに決し被告人坂元兼一は同月廿日正午頃步兵第三聯隊に到り折柄來合せたる安藤輝三及陸軍砲兵中尉朝山小二郎陸軍步兵中尉村中孝次等と同席にて中村義雄と面接したる席上に於て中村義雄は其の席上に於て中村義雄は安藤輝三等に對し革命の客觀的情勢は其の機熟したるにより海軍側は近く蹶起せんとの意圖を有する旨を告げ且陸軍側青年將校の決起蹶起を勸說したるも安藤輝三等は之に對し何等明答を與へず暗に拒否するの態度に出でたるより被告人坂元兼一は之を見て陸軍側將校の態度は慊らずと爲し中村義雄を別室に呼び自分は貴官と同意見なる旨及他に同志の士官候補生十名ある旨を告げたるに中村義雄は右士官候補生等と會見して意志の疏通を圖りたき旨申出で被告人坂元兼一は廿一日東京市外大久保町百人町百七十八番

地藤田儀治所有の空家に於て會合せんことを約し歸校後之を被告人等に傳へたり、而して各被告人中中島忠秋を除きたる後藤映範等十名は翌三月廿一日前記空家に於て元士官候補生池松武志と共に古賀清志及中村義雄と會合し其の際古賀清志より被告人等に對し井上昭一派即所謂血盟團の社會に與へたる影響を擴大し革命の段階に進ましめんが爲め吾人は之が捨石となり直接行動を敢行せんとの意圖を有す吾人の本隊とも稱すべきものに大川周明、長野朗及頭山某の各統あり別動隊として茨城縣の農民同志あり、吾人は救國濟民の大慈悲心により起つものにして來る四月中旬乃至五月中旬の間に之を決行すべく、所要の武器は海軍側に於て之を準備すべき旨等を告げ被告人等の合同參加を求めたるに被告人等及池松武志は何時も之に贊し古賀清志等と合同し其の直接行動に參加せんことを約し又當日事故の爲右會合に列せざりし被告人中島忠秋は同年三月廿七日被告人後藤映範の日曜下宿なる東京市四谷區坂町番地不詳坂田權重方に於て被告人後藤映範同坂元兼一と共に古賀清志より前記三月廿一日會合の際同人が被告人後藤映範等に開示せると同趣旨の意圖計畫を聞き直に之に贊し之と合同し其の直接行動に參加せんことを約するに至れり

×

而して同年三月二十日頃豫て國家改造運動に關心を有し居たる奥田秀夫は中村義雄の勸誘に依り又茨城縣西茨城郡常盤村に在りて愛鄉塾を開き農村問題を研究し農村の窮狀を打開せんが爲國家改造運動を志し居たる橘孝三郎も亦古賀清志の交渉に應じ其の塾下たる後藤圀彦及塾生と共に農民同志として孰れも古賀清志等と合同し其の直接行動に參加せんことを約するに至れり

×

斯くして海軍部外の同志を獲得したる古賀清志及中村義雄等は一面海軍部内の同志と緊密なる連絡に努むると共に他面海軍部外の同志と連絡會合して指導統制に圖り更に全同志の中心として諸般の實行準備を進め豫て海軍部内の同志

海軍中尉三上卓等の入手せる手榴彈、拳銃、同實包等の集中を圖ると共に當時東京府荏原郡大崎町上大崎二百三十一番地居住大川周明、當時東京府豐多摩郡澁谷町常盤松十二番地居住頭山秀三及當時同家秘書茨城縣新治郡土浦町眞鍋臺一千二百廿三番地居住本間憲一郎と交渉し拳銃及は資金等の供給を約せしめ、同年四月三日大川周明より拳銃五挺同實包約百廿五發を同月十七日より同月下旬に亘り本間憲一郎より合計拳銃六挺、同實包若干を受領し、因て同月末頃までに手榴彈二十一個、拳銃十三挺、同實包數百發の武器を蒐集し、且同月三日より同年五月十三日までに大川周明より合計金六千圓を受領しては資金を調達し又實行計畫としては同年三月下旬より着々

計畫を進め同志の直接行動に依り戒嚴の宣布を見るに至るべき事態を作成する方針の下に海軍側同志、士官候補生側同志（池松武志を含む）及奥田秀夫を以て本隊とし橘孝三郎一派の農民同志を以て別動隊と爲し本隊は首相官邸内府官邸其他數個所を襲擊して支配階級代表者を暗殺し警視廳を襲擊して警察力を破壞し又別動隊は本隊の行動と呼應し

海軍少尉黑岩勇をして橘孝三郎一派の同志林正三に交付せしめ、其の襲擊決行日時に關しては被告人等士官候補生の大部分が同年四月二十四日より滿鮮地方戰跡視察の爲同地方に旅行し同年五月十四日歸校の豫定にして被告人坂元兼一も亦同年四月二十日より測圖演習の爲福島縣下に旅行し同年五月十四日歸校の豫定なる等の事情を斟酌し同年五

南阿自治領

日本品に高率課税

將來邦品進出を見越しての惡法

〔東京廿六日發國通〕ケープタウンより外務省に達せる公電に依れば南阿西部も他の自治領殖民地と同樣日本品に對しダンピング防止稅を附加することとなつたと、日本の南阿に對する輸出額は極めて少額で問題とするに足らぬが將來の邦品增加を見越して惡法を實施するに至つたものである

月八日東京府豐多摩郡澁谷町神宮通一丁目二十番地萬壽參座敷萬歲庵事中村康平方に於て海軍側同志古賀清志、黑岩勇、海軍中尉山岸宏、海軍少尉村山格之、士官候補生側池松武志、被告人後藤映範、同金淸豐等會合の際來る五月十五日を以て本隊及別動隊の決行日と爲すに決し次で同月十三日茨城縣新治郡土浦町料亭

山水閣に於て古賀清志、中村義雄、池松武志、奥田秀夫及橘孝三郎一派の同志後藤圀彦會合の際本隊の決行時刻を午後五時卅分とし、別動隊の決行時刻を午後七時頃と爲すに決し又本隊の襲擊目標及行動計畫に付ては若干の修正を加へ同年五月十三日前記山水閣における同志會合の際

×

（一）本隊は之を四組に分ち第一段に於て、一組は首相官邸、二組は牧野内府官邸、三組は立憲政友會本部、四組は三菱銀行を夫々襲擊し第二段に於て一、二、三組は警視廳を襲擊し警官隊に對し決戰を爲し然る後東京憲兵隊本部に自首し、四組は第一段決行後直ちに東京憲兵隊本部に自首すること

（二）人の配當は一組に黑岩勇、三上卓、村山格之、山岸宏後藤士官候補生等五名、二組に古賀清志、池松武志、士官候補生三名、三組に中村義雄、士官候補生三名、四組に奥田秀夫とし

（三）武器の配當は一組に手榴彈六個、拳銃六挺、短刀若干、二組に手榴彈四個、拳銃三挺、短刀若干、三組に手榴彈三個、拳銃三挺、短刀若干、四組に手榴彈二個、短刀若干とし

（四）集合場所は一組は靖國神社、二組は泉岳寺、三組は新橋驛、四組は東京驛若は宮城前とし

（五）集合時刻は十五日午後五時決行時刻は同五時三十分とし

（六）細密計畫として

一、『行動』は自動車を強制使用すること

二、統制は年長者之に當り絕對服從のこと

三、集合の際は特に注意し不自然に渉らざる如く例へば偶然知己に遇ひたる如く裝ふこと

四、武器の授受は集合後適宜之を爲すこと決行時期に因はれ授受を不完全ならしめざる樣注意すること、自動車内にて授受を完了し決行に移るを可とす但奥田秀夫には十四日夜省線原宿驛に於て中村義雄より手榴彈一個を交附すること

五、武器の使用區分に付ては（イ）手榴彈は第一段に於て一組は三個以内二組、三組は各二個以内、四組は二個全部を使用し第二段に於て一二、三組も最も效果的に全幅使用すること

（ロ）拳銃は一、二、三組とも妨害者に對してのみ使用すること

等を決定し且同日右會合に列せざりし同志に對する連絡又は計畫傳達の方法を定め同月十五日正午頃までに該計畫は各同志に傳達せられたり、而して被告人中豫て滿鮮地方に旅行中なりし篠原市之助、中島忠秋、石關榮、八木春雄、野村三郎、西川武、菅勤、吉原政巳は孰れも同月十四日正午頃又豫て福島縣下に旅行中なりし坂元兼一は同日午後四時頃夫々其の旅行先より歸校し孰れも同夜被告人後藤映範及同金淸豐より前記五月八日會合の狀況を聞き連絡の爲翌十五日午前八時三十分頃被告人坂元兼一を外出せしめたるに被告人坂元兼一は池松武志より前記五月十三日決定の計畫書一通を受取り同日午前十一時頃歸校し之を各被告人等に回覽し因て被告人等は該計畫書に基き各被告人の配置を定めたり

政黨法

制定されん

〔東京二十六日發國通〕内務省では比例代表制立案と同時に同法の本質上政黨が必然的に現行制通り政黨の地位大いに重要となり從來の政治事變より今後は法律取締を對照として法律事實となし全く新らしい取締制度が必要となる故比例代表審議に併行し此の點の調査を進める事に決定し、先づ政黨の範圍を法律的に明確にし政黨法の如き單行法を制定し政黨に關する基本事項を規定せんとの意嚮有力又政黨費公開も最重要問題として考慮されて居る

人事往來

▲穗積眞六郎氏（朝鮮總督府殖產局長）二十六日午後四時三十分奉天へ

▲中村寧壽氏（代議士）二十六日午後七時五十分來京

▲福原俊丸氏（貴族院議員）同上

▲ブロンソンレー氏（滿洲國外交部顧問）同上

▲西山財務局長二十七日午前八時來京

▲田中庶務課長同上

▲安達中佐（關東軍線區司令部）同上

▲沼田中佐（關東軍參謀）同上

▲呂榮寰氏（北滿特別區長官）二十七日午前九時大連へ

▲山西滿鐵理事二十七日夜來京の豫定

團體

▲台北高商生十一名二十七日吉林往復

▲京都第二商業生四十名二十七日午前八時四十分ハルビンへ

▲京城第一高普學生二十名同上

▲慶應義塾生二十七日午後四時三十分安東へ

▲栃木縣產業視察團十二名二十七日午後三時二十五分來京同時奉天へ

▲廣島高師附屬中學生二十二名二十七日午後七時五十分來京

▲大阪天王寺師範生三十名二十七日午後六時五十九分來京

▲大倉商業生十名二十七日午後四時來京

▲橿原驛主催團二十名二十七日午前六時四十分來京

▲拓大生十名二十七日午前八時四十分ハルビンへ

經濟欄

海外經濟

▲銀塊及爲替

倫敦銀塊 [illegible]

▲棉花

▲米

▲上海標金

▲大連金鈔

▲大阪三品

▲大阪期米

▲大阪棉花

各地市場

▲大阪株式

▲同短期

▲大連株式

新京市況

▲錢鈔（現物）

鈔票對金票 [illegible]

現大洋對金票 [illegible]

國幣對金票 [illegible]

大洋對鈔票 [illegible]

▲豆 [illegible]

▲高粱 [illegible]

遠く南洋に新市場を求む
日本輸出振興組合で代表を南米に派遣

(大阪廿七日發國通) 世界の列强が視聽を集中してゐる中南米の

＝廣大＝

なる地域と其の購買力は我國でも貿易國策の折柄特に其の經濟的發展の必要が痛感されてゐるが、來る八月十日日本輸出振興組合から九名の代表を南米に派遣、南米地方に向つて日本品の販路擴張宣傳に活躍せしむる事となつた、一方大阪商船でも邦品の中南米市場獲得を策し全國に向つて視察員を募集し三名の視察員をして調査に着手せしめてゐるが、最近の調査報告を綜合すれば中南米に於る日本品の人氣は左の如くである

目下中南米の各地即ちパナマ西印度、ベネズエラ、メキシコ、コロムビヤ其他に開催中の邦品巡廻見本市は素晴しい歡迎を受け、既に日本滯在のドイツ商人數人に依つて獨占的に賣り込まれて居た日本の綿絲布、電球、陶磁器、玩具その他雜貨は

＝勿論＝

ゴム製品、自轉車、セメント等は特に有望視され新市場として頗る價値あるものと期待されて居る

關稅問題で
大阪見本市團と懇談會

(奉天二十六日發國通) 奉天商工會議所は二十八日より奉天に開催される見本市に參加の爲め來滿せる大阪市産業部調査係長牛谷友七氏、中日重親會委員長二川豐三郎氏以下大阪見本市團體三十名に奉天輸入關稅問題に就き隔意なき意見を交換する爲本日午後二時より懇談會を開催した、參會者は上記大阪見本市團体三十名に奉天側よりは庵谷商工會議所會頭、上田副會頭、野添理事長以下會員二十名で大阪貿易業者より

一、加工綿布の輸入稅は極めて不公平で價格の安いものに高稅を課し、高價のものに低稅を課して居るものが多い
二、護謨靴と地下足袋の稅は同一にして取扱はれたい
三、小包荷物で輸送した場合課稅されるものと課稅されぬものとあり値段の不公平があるが一率に課稅されたい
四、傘に對する稅が高過ぎる例へば洋傘で一打六圓のものに一本三圓即ち一打三十六圓の課稅は無茶である
五、ストーブの稅金は二割だがストーブは滿洲では必需品だから稅金を一割位にして欲しい
六、蓄音機は最近日本でも立派なものが出來るが之に對する稅金は原價にかけて欲しい、現在では小賣値段にかけるので非常に高率である
七、羅紗に對する稅金は高過ぎる、最高二割位にして欲しい
八、鞄の皮は滿洲から輸出されて日本で加工されて滿洲に輸入されるものであるが二割五分の稅は高い
九、日用品は凡そ無稅にし一般民衆の福利を計るべきである
十、石油ランプの如き下層大衆の用ひるものも最少の稅金にして欲しい

等の要望あり奉天商工會議所側も寺尾、石井、入江會員立つて輸入稅の高率が日滿貿易を阻害して居る事を縷々說明し同意を表し

上田副會頭は

日滿經濟ブロツクは最近盛に唱へられるが滿洲品の日本に輸入されるものは親切に取扱はれるが日本品の滿洲に輸入されるものに對しては不親切の感がある今回の稅率改正も吾人の期待に反した

と述べ釘宮國際運輸奉天支店長、兒玉輸入組合理事よりも關稅改正に對し大阪生產者側の協力を要望し最後に野添理事長は

奉天商工會議所が財政部に要請した輸入稅百三十八種輸出稅三十二種であつたが今回改正されたのは前者に於て十六種、後者に於て一種のみであつた、大阪貿易業者は生產者たる立場より一年七、八千萬圓の輸入品の消費者たる奉天を中心にする民衆のため關稅改正運動を起されん事を望む

と述べ五時散會した

結婚用意金を竊取した犯人捕はる
元ヤマトホテルの事務員

去る六月末滿鐵運輸部勤務敷島寮百七號山本壽雄(三〇)氏の結婚費三百余圓の貯金通帳及女用指輪二個を竊取逃走した犯人の大和ホテル洗布部事務員關本厚爺(二四)の行方につき新京署司法係では各地に手配捜索中の處廿四日撫順に於て逮捕二十七日新京署へ連行した、右は六月末大和ホテル洗布部を解雇され以來知人である向井某の世話にて被害者山本氏と同宿中に山本氏が妻帶の爲近々中內地へ歸還すべく旅費及妻妹の指輪を所持して居る事を知り六月廿九日トラツクの施錠を破壞して竊取直に新京局に趣き二百八十圓の貯金を引出し指輪一個を擦ての馴染女である東一條通某カフエーの笑子に渡し姿を消したものである

新京驛で旅客サービス協議

殺到する視察、見學團に備へる爲新京驛では二十九日午後一時より驛貴賓室に於て開催次の諸案を審議する筈

一、視察客を如何に扱ふか
二、客馬車及人力車を如何に扱ふか
三、係員の接客サービスの向上
四、係員に於て旅館業者を如何に指導するか

育成對新京
廿八日に行ふ

本年度に入りて全新京軟式庭球部の活躍は目覺ましいものがあり、既に七月以後のスケヂユールもこのほど發表されたが、差當り來る三十一日の育成學校對全新京の試合は二十八日午後四時より新京警察コートにおいて開催に變更された

新京附屬地の阿片賣買人決まる
全部で七人けふ發表

阿片の專賣統一と共に新京署衞生係では同指定販賣人の調査をなしつゝあつたが全部完了したので六月中旬關東廳へ報告本廳にてこれが銓衡を急いでゐたが二十七日左の如く七名に決定した

日本橋通　杜筱亭
吉野町四丁目　劉起駿
東五條通　張秉衡
三笠町三丁目　丁吉堂
日本橋一二九　趙書功
富士町二丁目　馬仲三
同　王殿章

盧山會議の內容

(天津二十六日發國通) 盧山會議の內容については極秘に附せられてゐるが、確聞する所に同會議に於ける討議內容は左の如きものとされてゐる

一、新疆省內及西北邊境に於ける對ソヴイエート問題
二、察哈爾省問題解決
三、四川、江西兩省の掃匪問題
四、軍隊の整備統制等の改革問題
五、對米米麥借款の振當問題

鄭桂林に
手榴彈を投ず

(天津廿六日發國通) 綏中の山中に蟠居熱河討伐の際服部部隊に頑强に抵抗した鄭桂林部隊は長城戰後灤東から津浦線馬廠で何柱國軍に改編の豫定で軍事敎練中廿二日突如兵變を起した兵變部隊は千五百名中七百名で同日鄭桂林が營庭で全部隊を集めて訓話を施し軍發として北平軍事分會より支給された三萬元は食料購入のため消費し終つた旨云ぐるや、不滿部隊の一兵士が突如鄭目がけて手榴彈を投じ、鄭は身を以て逃れたが、背反部隊七百名は武器を携帶のまゝ脫隊し、鄭の避難場所を包圍五萬元の提供を迫つた、急報により于學忠の第一分團では救援隊派遣命令を何柱國に發したが、熱河背反兵露骨に馬賊根性を現はした末路は一脈の哀れさを感ぜしめる

武裝解除兵の
不穩行動斷乎膺懲

(奉天廿六日發國通) 過般の日支停戰協定成立により義勇軍の一部は既報通り武裝解除を爲したる上解散せしめたが最近之等解散兵の一部が地方にあつて治安攪亂をなすべき形勢にあるため我軍では若し之等解散兵が熱河省內に入り治安攪亂の行爲に出ずれば斷乎掃蕩すべく若し又長城線外所謂滿內に於て爲す場合には大体不干涉主義を執るも我軍宿營地附近に於て治安攪亂の擧に出ずれば省內と同樣徹底的に之等を討つべく方針を決定した

吉、劉兩軍依然
多倫で陣地を構築
糧秣は張家口から補給

(奉山廿六日發國通) 目下多倫に在る吉鴻昌、劉桂堂の兵力は二十四日現在に於て約三千名であるが之等に要する糧秣その他は目下調發困難なるため、張家口方面より補給して居ると、尙同軍の多倫撤退說が一部に傳へられたるも右は虛構で依然多倫に駐在し陣地構築續行中である

不逞支那人入滿阻止の爲
入滿苦力の取締法を講究

(奉天廿六日發國通) 滿洲攪亂の目的及抗日反滿等の使命を受け變裝して滿洲國內に潛入する南方派遣の便衣隊の入滿を防止する爲滿洲國民政外交兩部は協力これが對策講究中で、探聞するに將來は入滿苦力を團体入滿させ雇主側と協調の上移動又は送還せしめる意向であると、卽ち本溪湖撫順等の採炭所へ夫五百名來滿の場合は團体使役させ不要となりたる場合は歸職或は團体歸國をなさしめんとするものである

東亞產業協會
發會式擧行

滿洲國產業の開發促進と東亞經濟聯盟確立する事業をはかる目的の下に設立された東亞產業協會は來る八月一日を卜し新京ヤマトホテルで發會式を擧行する

蘇聯代表の病氣で
北鐵の交涉の私的會商も不能

(東京二十六日發國通) 北鐵讓渡の公開會議は取止めとなり大橋次長とカズロフスキー氏は善後策を協議の結果午後から私的會商を開始することゝなつたところ間もなくロシヤ側ではユレチフ氏の病氣の外にクズチツオフ氏も病氣で事務打合せをし得ずと申込み會議は全く停頓した

開設記念日
范家屯警察署

范家屯警察署では來る八月一日が同署開設第一週年記念日に相當するので武道暑中稽古納會を兼ね同日午前九時から祝宴を催すと

附屬地內を隈なく近く人口調査
水道計畫その他の基本に
地方係で近く實施

首都新京の素晴らしい發展につれて附屬地の人口は日々殖えてゆく一方であるが、中には屆出も怠りそのまゝになつてゐるものも尠くなく、滿鐵地方事務所でも水道計畫をはじめ學校その他一般社會施設計畫のためこれが精確な基本調査が最も必要視されるに至つたのでいよ〳〵二三日中に地方係約十名が附屬地內の各戶を訪問して隈なく調査することになつた、右は前記の理由で公費關係などには全然關係のないものであり、精確なる數字を得るためにぜひ申告を誤らないやうに特に注意して欲しいと當局では希望してゐる

蘇聯平津地方に
中蘇貿易公司設立か

(天津二十六日發國通) ソヴイエート政府商務人民委員會委員カオマフ氏は此度來津したが、その目的は蘇聯商品の平津地方進出據點としての中蘇貿易公司を設置すべく天津市商會主席張品輝、其他委員と面接のためと云はれ、注目されてゐる

服部博士講演
夏期大學の延長を
二十八日夜西廣場校で

大連滿鐵協和會館に開催中の滿洲夏期大學の延長として特に新京において開催されることゝなつた早大敎授經濟學博士服部文四郎氏の講演會は二十八日午後七時半から西廣場小學校講堂において地方事務所主催の下に開催されることゝなつた、一般にも開放されるはずで演題は「國際經濟と日滿財界の動向」についてである

けふの銀相場

鈔票對金票　一〇四・八五
現大洋對金票　九九・四〇
國幣對金票　九九・七〇
國幣對鈔票　九五・三五

戀の哨兵?

これがこないだの晚、おそく西公園の散步からの歸りかけに、中央通りで追剝ぎに短刀で脅かされた一力の舞妓丸一であります、かわいさうにびつくりしたことでせう、だが別に怪我もなくてしあはせランデブー歸りの彼氏彼女でも標へあがらせたとでもいふならばそこにナンセンス味もあるがこんな無邪氣な雛妓を脅かすなんてせつしやうな追剝めだ

丸一その昔姉さん豆〇の場合には「戀の護衛兵」があつたがこないだは何だつたでせう、疑問です、或ひは京太郎とやらいふ姐さんの「戀の哨兵」に引つぱつて行かれたのぢやないでせうか、京太郎姐さんベンチに腰をかけて彼氏と喋々喃々と甘つたるい囁きを交してゐる、少し離れて丸一步哨兵がコツン〳〵と靴、おつこ通つたカラコロと木履の音を響かせて行つたり戾つたりで、おゝ來ましたツエ、ワンとつちからも、あつちから犬が一疋私こわいでありますツてなわけの勤務に服しての歸り道ではなかつたでせうか、だとすれば、びつくり料に京太郎姐さんからうんとおごつて貰ふべしだね

星ケ浦の海濱聚樂から
第六信 室町小學校

夕　高二 小野君子

朝な夕なに寄せくる波は
おもしろおかしいうた歌ひ
なぎさの白砂うつ度に
白いく花が咲く、
可愛いと聲で歌唄ふ、
今日も暮れゆく渚邊をゆけば
サラ〳〵寄せる小波の
そつとはひよるその度に
小さい足跡きえてゆく、
遠くにかすめる沖小島
ジヤンクの影も二つ三つ
さびかふカモメのなく聲に
今日も靜かに暮れてゆく、
靜かなく海の面に
岬の小さいトモシビがチラホラと
淡い光をなげて居る、
なぎさを傳ふ異人さん
よひやみ迫るいそのべの
岩の間にきえてゆく、

二級に成つた　七月二十四日　尋五 中西一郎

今日も波の音きゝ日が暮れる

三級をおえて二級をうけることになつた、五年では僕一人だつた、僕はとうていだめだろうと思つてゐたができるだけやるつもりでした、今日は朝から雨が降つたり日がてつたりしてゐる、波は高い沖の島もかすんでみえる、なにしろ一哩もおよぐのだからしつかりしないと、だめだと思つて息のつゞくかぎりおよいだ、そうすると舟の上から「あと三〇分」といふ、そこへがきすこしだと思つて一しようけんめいにおよいだ、波は僕のせいよりもたかい、舟もひつくりかへりそうになつた、それでも僕一しようけんめいにおよいだ前の人の頭が出たりひつこんだりする大分つかれた僕 必死だつた「よし」といふこへが舟の上からきこえた、僕わすべつたのかと思つた陸に歸つて先生が「通つた」とおつしやつたのでやつと安心した、神樣のたすけだつたとごうかくしたのが二十五名の中十五名だつた

都市對抗水上競技大會
卅日奉天滿鐵プールで開催

(奉天二十六日發國通) 來る三十日午後一時奉天滿鐵プールに於て州外都市對抗水上競技大會が開催されるが、參加チームは安東、撫順、四平街遼陽、奉天の五チームで競技種目は左の如し

五十米、百米、二百米、四百米、一千五百米、の各自由型、二百米平泳、百米背泳、二百米リレーである

伊國防米飛行艇隊
歸還飛行の途に

(ニユーヨーク二十五日發國通) 太西洋橫斷編隊訪米飛行に成功したバルボ空相引率の伊太利飛行艇隊二十四機は廿五日午前九時一分翼を連ねて紐育を出發再び太西洋橫斷歸還飛行の途に上り第一階梯ニユウブランスウイク州のセダヤツクに同日午後三時到着した

滿倶破る
對慶應二回戰
4A—2

(大連廿六日發國通) 慶應對滿倶第二回戰は午後四時十分滿倶先攻に開始され、四對二で慶應雪辱す。閉戰六時十五分

スコアー

										計
滿倶	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
慶應	0	0	0	3	0	0	0	1	A	4A

バツテリー
滿倶　荒木—紡島、島
慶應　岸本—三宅、櫻井

ラヂオ
二十八日(金) 民族協和週間放送番組

奉天後四、〇〇　レコード　相場　商業通信社
奉天後四、三〇　演藝
新京後五、〇〇　講演　協和會之使命　滿洲國協和會委員　王大忠
同　後五、三〇　ニュース(滿)
東京後六、〇〇　ニュース　(入)東京中央放送局編輯
新京後六、二〇　語學講座(滿洲語)講師　寫宮盛雪
　六、四〇　同(日本語)　植松金枝
同　後七、〇〇　ニュース(英)
同　後七、一〇　ニュース(露)
同　後七、二〇　ニュース(鮮)
同　〃七、三〇　ニュース(日)　氣象豫報　放送局編輯及プログラム豫告
同　後八、〇〇　演藝
東京後八、三〇　時報
同　後八、三一　ニュース　(入)東京中央放送局編輯

幕末異聞

愛慾火箭

(百二十六)

(講上演) 作 瀧川駿
畫 村瀬洗舟

不思議な手紙(二)

土藏造りの建物だけに、家の中が何となく薄暗い。日射しに向つて與四郎の床は敷き延べてあつた。四五日續いた熱に、與四郎はひどく元氣がなかつた。枕邊に早苗が物憂ひ顔で坐つてゐた。物靜かな部屋だから、四邊の音がひどく響くやうだつた。隣の部屋の對話が、手に取るやうに聞えて來る。――秀奴の高い聲がする度に、はら／＼して早苗は與四郎の顔を覗いた。與四郎は默入つてゐるのか、目をつぶつてゐた。静かに襖の裾を濫らして、秀奴と道齋が這入つて來た。病床の中で、與四郎がぱつちりと目を開いた。

「師匠さま、暫らくでございました」

與四郎の枕元で、秀奴は低く聲をかけた。

「おゝ秀奴か、いかい迷惑をかけるの……」

「何の御遠慮がいりませう。御ゆつくり御養生なすつて」

道齋が目で何かを言付けた。

「では失禮を致します」

秀奴は隣りの座敷へ出て行つた。與四郎は窶れた顔を上げて、何か思ひ出したやうに言つた。

「太田氏、今日は節分ぢやな？ ふゝゝ鬼は外福は内でなくて大變な鬼が入つて來たな……」

與四郎は笑ひに紛らして言ふ。だが道齋は、その言葉に默してゐた。

やがて、秀奴の歸つて行くらしい氣配がした。道齋は、何氣なく懐中へ差し込んだ指先に、先刻の手紙が觸つたので、どきッとする胸のときめきを繰返してゐた。

誰か人が訪れたらしい氣配に、道齋は機を得たやうに出て行つた。

「與四郎さま」

微な聲で、早苗が呼んだ。

「何んだ」

「わたくし……」

「どうしたのだ？」

「あのう……」

語尾が口ごもつて、ぱつと顔を赧らめた。

「何うしたと言ふのぢや？」

「出來たらしいのでございます」

「出來たとは？」

「あのう――赤ん坊が……」

斯う言ふと、きまり惡さうに顔をそむけた。

「さうかはゝゝゝ」

與四郎は嬉しさうに、笑ひ聲をあげた。

早苗と同棲してほんの三月、病に追はれるやうな忙しさと、病の外より無かつたが、自分の胤を宿した、自分の血が芽生えてゐるのだと思ふと、消に嬉しかつた。

「師の占……」

「――だつてまだ形が有るか無しかなんですよ」

「何日生れるのだ？」

「まだずつと先の話です」

「さうか、さう聞いて安心した。今此處で生れては、第一太田氏へ迷惑をかけるし、それに拙者が病氣では抱へてやることが出來んわ……」

はゝゝゝはち切れさうな笑ひに、顔色までほんのりと櫻色を差した。

土藏造りの家は日の暮れるのが早い。まだ八つ過ぎだと言ふのに家の中では灯が欲しいやうであつた。

夕ぐれ前の明るさが、藥研堀のこの家、太田道齋の家を強く射る頃、大川端の岸に船をつけた不可思議な一行があつた。船から飛び上つたのは、遊び人風體の男だつた。人數總計九人、思ひ／＼に矢の倉の方へ流れ込んで行つた。

と、一人が道齋の家の藥庫の窓の下に立つて、上の窓を見上げた。

七月廿八日 舊六月六日 金曜 乙未 大安 建 亢宿

●一白の人 奮闘するもイ運には打勝ち難し守靜が肝要 巳と辛と亥が吉
●二黒の人 平坦の地を往くが如くなるも急げば蹉くあり 丁と庚 辛が吉
●三碧の人 私慾を離れて人の爲に盡せば後に利福あり 乙と亥と癸が吉
●四緑の人 氣力は有れども鈍くして思ひ通りにならず 乙と申と癸が吉
○五黄の人 萬事不穩の形勢を含むが故に志見合すが吉 丙と亥と艮が吉
●六白の人 自信に燃えて大に成す所あり熱心努力に吉 亥と癸と寅が吉
●七赤の人 心湧き立ち氣も躍り大功を收むべき幸運日 庚と癸と寅が吉
●八白の人 寶の山に入り乍ら路に迷ふが如し辛抱肝要 丁と辛と亥が吉
●九紫の人 自力を以て開拓容易なる日耐忍を旨とせよ 甲と丁と寅が吉

大正九年十二月十四日　第三種郵便物認可

新京日日新聞

新京永樂町四丁目一番地　發行所　新京日日新聞社

憂色全滿を覆ひ 大使官邸往復繁し

心から快癒あれと祈る市民

派遣の名醫 新京へ心急ぐ

日滿の契り武藤元帥容態危險を續けつゝあるの報一度び傳はるや二十七日朝來商埠地大使館官邸には日滿官民の元帥を見舞ふ自動車おるが如く、見舞電またひきもきらず、大使館官邸は全く憂色につゝまる、畏くも　三陛下には御見舞電を發せらるゝと共に葡萄酒を御下賜遊ばされ溥執政また容態を憂慮せられ侍醫を御差遣の上、葡萄酒を賜はる、また大連に避暑中であつた鄭國務總理、謝外交部總長は急遽二十八日の特急ハトで歸京病床を見舞ふ等憂色全滿を覆ふがごと、午後二時再度の病狀發表でいよ〳〵危險加はるの報傳はるや官邸の憂色更に濃く、見舞客殺到夜に入つて我等が元帥病床に臥す總領事館内の大使官邸の内外は平常よりも更に嚴戒が施され、官邸の周圍に張りめぐらされた鐵條網、その間に點々ともされた電燈の光がボンヤリと浮んでゐるのも元帥の病快方に向ふを祈るがごと、官邸に出入りする自動車のヘツドライトにその都度衞兵の捧げる着け劍のみ氣味惡く光り緊張の度いや增すうちに夜は次第に更けてゆく

危險狀態をなほ繼續

（二十七日午後二時三十分關東軍司令部發表）武藤關東軍司令官二十七日午前六時の病狀はさきに發表したるところなるが其後の狀態漸次惡化し危險狀態を繼續しつゝあり

快癒を祈る市民 新京神社へ殺到す

されど病は益々危險を傳ふ

本社が逸早く報導した武藤軍司令官病篤しとの號外を手にした新京市民の憂慮はさながら我父の病をいたむが如く道行く人々は皆一樣に『憂色』を面にたゝえ三三、五五しようぎに涼のうちはを振る人々もいつもの明らかな哄笑を打つて變り眉間を寄せては病狀を語り經過如何にと憂へてゐる、又一方薄暮の町々に輝く無數のしめり勝な電光を縫ひ、天空にまたたく銀星を仰いで新京神社へ快癒の祈願に赴く人々は引きもきらず天を仰ぎ地に伏し神かけ病魔の除外に熱心な祈禱を捧げ、滿洲國王道樂土の建設に再び貢獻する健やかな日の到來せん事を切望してゐる、然し如何なる天魔の戯れか、斯く市民の熱誠なる祈願も其効なく病狀は益々惡化し『市中』を覆ふ憂感は益々深刻の度を增してゆく

勳績を思召され 勅語を賜ふ

（廿七日午後八時關東軍司令部）二十七日午後關東軍司令官武藤元帥に對し勅語を下賜せられたるを以て小磯參謀長は午後八時官邸に到り幕僚侍立の上枕頭にてこれを傳達せり

勅語

卿關東軍司令官トシテ重任ヲ閫外ニ荷ヒ營營宜シキヲ制シ皇軍ノ威信ヲ中外ニ宣揚シ重大ノ時局ニ處シテ克ク朕カ倚信ニ副ヘリ朕深ク卿ノ勳績ヲ思ヒ之レヲ嘉ス

武藤元帥奉答

病床ニ在ル元帥ハ優渥ナル勅語ニ恐懼感激シ直チニ奉答文ヲ捧呈セリ

優渥ナル勅語ヲ拜シ臣信義感激ニ堪ヘス謹ミテ聖壽ノ萬歳ヲ祈リ奉ル

林、八田滿鐵正副總裁 大連發見舞に

（大連廿七日發國通）武藤司令官危篤の報に滿鐵では今朝九時半發「ハト」で河本理事が見舞のため先發したが、更に午後四時半發列車で林、八田正副總裁共に新京に赴き親しく司令官の病狀を見舞ふことになつた

（大連二十七日發國通）河本滿鐵理事は在連中の打合せ事務一段落ついたので豫定を繰上げ滿鐵代表として武藤司令官の病狀を見舞ふ爲今朝九時ハトで新京に向つた

兩陛下より葡萄酒下賜

（二十七日午後二時三十分關東軍司令部發表）關東軍司令官、特命全權大使、關東長官元帥陸軍大將武藤信義の病狀御尋ねとして今朝　兩陛下より葡萄酒一打下賜の趣御沙汰あらせらる

溥執政 葡萄酒を贈らる

（廿七日午後二時三十分關東軍司令部發表）溥執政は今朝侍衞官を派遣し武藤司令官病氣御見舞として葡萄酒半打を贈らる

寶内務府 武藤元帥見舞

武藤元帥重態の報に接し執政府内務處長寶熙、内務官小平總治兩氏は執政府代表として本日午後三時官邸に武藤元帥を訪ひ御見舞の言葉を述べ歸府した

鄭國務總理 謝外交部總長 急遽歸京

（大連廿七日國通）避暑のため目下大連滯在中の鄭滿洲國國務總理並びに謝外交部總長は武藤司令官危篤の報に二十八日午前九時發「ハト」で急遽歸京することになつた

~~~~~~

ボツボツは沸る

改正關税は 果して滿足なりや

當業者の意見を聽く（三）

綿毛布

今回の關税改正中低下率に於てその最たるものは綿毛布である

『斯品』は綿製品にして毛布といふも決して贅澤品にあらず且つ極寒の滿洲國にありては純然たる生活の必需品であるにも不拘從來贅澤品と等しき税率即ち一擔につき四十七圓の高率を課してゐた、これを具体的に説明すると綿毛布一枚の目方が三百五十匁とすれば約四十五枚で一擔、この金額が一枚二圓として九十圓、これに對し四十七圓の課税、即ち五割二分の課税を行ふこととなる、この外運賃諸雜費を通算すれば有に内地販賣價格の六割五分高となる右については商工會議所を始め、一般商人より昨年來再三の請願及要求書が當局者に提出され改訂を迫つた爲、今回の改正となつたのである、改正の『結果』によれば一擔に對し四十七圓を、六割四分引下げ十六圓九十錢となした、これを從價に直すと約一割八分強となり、要求率一割五分までには達しないが、先づ〳〵妥當と認めてよいだらう、綿毛布は現在滿人間に相當行き渡り非常に『廣く』温突の桿の上、敷布、敷物等に用ひられてゐる、現在の輸入額については確たる事は判らぬが、大体一ケ年に五萬圓内外と見られてゐるが改正により同品の輸入激增は『豫想』に難くない、從て關税低下による減收はなからう、右につき某綿毛布商は語る

吾々は從價税にして一割五分と改めることを要求したのですが改正の結果を見ると從量税でまだ少し高い樣ですが滿洲國の現狀及收入關係から押して吾々は異存はありません、一枚につき約三割五分安くなつたのですから綿毛布の賣行は充分期待出來ると共になる明待し喜んで居ります

地下足袋

數年前内地に於て始めて購入向に作られたもので價格の『低廉』なると比較的耐久力あるため、漸次需要增加し、現今に於ては一般下層民は殆ど之を使用し、滿洲國輸入商品中最も主要なる地位を占むるものの一つとなつた現下日本内地の地下足袋製造會社は滿洲を最も重要なる販路として互に猛烈なる競爭をしてゐる然して地下足袋は税率表中第六百二十一番（B）の長靴及短靴（其他全部）『又は』一部分がゴム製（履物）として一律に一割七分五厘を課され低級品にして下層階級民の需要品である高級品と同一税を課する不合理が行はれてゐたが、今回の改正により七分五厘引下げられ從價の一割となつた、この改正は汎ゆる方面から見て、妥當で今回の關税改正中最も好評嘖々たるものがあり而してこの『抵下』は民衆福利の增進王道政治を標榜する滿洲國として滿洲に於ける地下足袋の販路は最も富を得たものである、右につき某地下足袋商は語る

は遂次擴大され、現在にては下層階級の大部分は之を使用してゐます、從て滿洲國の國是から云つて今回の改正は非常に適率で、吾々は『双手』を擧げて滿足の意を表してゐる次第です

對馮問題と東朝の論説

（東京廿七日發電通）本日の東京朝日新聞は「滿洲國の馮軍討伐」と題する論説を掲げ北支に於る停戰後の不安は馮軍の對日態度反蔣に對する態度によつて急激に高められてゐる、北平當局並びに南京政府は北支治安維持の爲馮軍の徹底的解決をせねばならぬ責任があるが、其の解決は容易でなくそれを待つて居られない實情が日滿軍をして自らこれに當らざるを得ざらしめたのだ、停戰協定の安寧を期する爲に日滿軍隊對馮軍の問題が徹底的に解決せんことを望む

北寧沿線の引繼を開始

（天津廿七日發國通）北寧沿線各縣接收の各縣々長並びに保安隊二千名は今朝四時接收委員殷同に率ゐられ東停車場より特別列車で出發した同車は途中唐山に停車、殷並びに各縣長は雷壽榮、蔣士行並びに李際春と面會、接收事務打合せの上各縣長は各縣の情勢に從ひ夫々多きは三隊、少きは一隊の保安隊を從へ、接收縣に最も近き驛にて下車接收に向ふ筈である

人事往來

▲高柳中將（滿洲國軍政部最高顧問）二十七日午後七時五十分來京國都ホテルへ

▲林警務局長（滿洲國）同上

▲永谷高等課長（關東廳）二十七日午前八時來京滿蒙旅館へ

▲蔵重内務部長（兵庫縣）二十七日午後來京中央ホテルへ

天氣と氣溫

けふの天氣、南東の風曇雨模樣昨日の氣溫、最高二十八度四、最低十五度二

舊東北政權の積欠支拂情況

飛行機關係は除外

滿洲國政府に於ては舊東北政權解消の結果未拂の儘放置されたる内外各國（日、英、米、佛、獨、丁抹、中國、滿洲國其他）に對する債務總計國幣約千二百萬圓、千百餘件に付先づ奉天省積欠債款整理委員會に於て之が整理調査を開始し、次で大同元年十月廿日中央政府内に設置せられたる積欠善後委員會に於て之を繼承し、鋭意研究の結果右金額を約六百五十萬圓に査定し、下記の如き方針にて支拂ふべく決定せり即ち

一、一九三〇年以降の契約にして物品納入濟の積欠に對しては大同元年度に於て其の三割五分を更に大同二年度に於て其の二割を各債權者一律の割台を以て現金を交付し殘額に對しては之と同額面の二十年償還三分利附公債を交付すること

二、一九二九年以前の契約及物品引渡未了の積欠に對しては精査の上合理的に決定せらるべき積欠額又は損害額と同額面の前記同件公債を交付すること

右方針に依り同委員會は關係諸國駐奉領事館（日本、蜂谷總領事、英國エー、メー、ジーゼアー總領事、米國エー、エスチエズ總領事、獨逸エー、エル、チゲス領事、丁抹エー、ジョルケンセン領事、）其他債權代表者と折衝其の同意を得たる上個々の案件の支拂額を決定し、一九三〇年以降の物品引渡濟のものに就き大同元年會計年度に於て現金を以て支拂ふべき三割五分は日本英國二月三日、獨逸一月十七日、米國一月二十八日、滿洲國（中國を含む）四月六日、丁抹五月五日、各支拂を完了し、大同二年度に於て現金を以て支拂ふべき第二次（即ち二割）は英國、丁抹を除き、日本七月十一日、獨逸七月十三日、米國七月十八日、滿洲國（中國を含む）七月二十日夫々支拂濟みで又之が殘額（即ち四割五分）に對する分並に一九二九年以前の契約に係る分及物品引渡未了の積欠に對しては之が査定額と同額面の公債（利子起算點七月一日）を來る七月末公債引換證を發行交付し八月公債證書出來の上右と引換ふる豫定にて目下着々準備中なり、滿洲國政府が積欠の爲め既に支拂ひたる金額内譯は左の通り

國籍	支拂金額（國幣圓）
日本	八六九、二一四、七四
英國	一八八、九七、三三
獨逸	三〇五、一四四、八二
米國	二八、四五七、三六
滿洲國及中國	一、〇〇三、八九〇、一三
丁抹	三、〇七八、三六
其他	四七九、六二
計	二、四〇七、一二三、四四

なほ飛行機關係支拂は滿洲國の名儀に非ざるを以て削除せり

又公債にて支拂はるべき金額は國幣約四百萬圓見當なるが這は八月中に公債にて交附される筈である

ハルビンから南下の大豆急に激增

輸出採算圏内に入つたため

最近ハルビンよりの南下大豆は急激に增加しつゝある即ち『通常』一日三十五車内外のものが二十一日七十三車、二十二日百三車、二十三日四十三車、二十四日三十一車、二十五日二十九車、二十六日四十九車となつてゐる、これが原因はハルビン八區以下の大豆約六萬キロトン中税票付約もの二萬五千キロトン内外あり今後八月迄には南下の豫定である、現在は輸出擬高買付濟にて未發送もの約百、滿鐵車に上つてゐる、在ハルビンの大豆は六月以來荷動きなく荷傷みを懸念されてゐたが、七月下旬に至り、遂に相場暴落し『最近』の如く現物一布度税票付（MY）八十錢乃至八十一錢になつた爲、輸出商（三井三菱）は採算圏内に入りたること、北滿鐵路運賃受入百金ルーブルに對し國幣百七十八圓となり、南下有利となりたるに基くものである

シムラ會議の前途期待薄

（東京二十六日發國通）外務省は曩に英國に對し南阿及海峽殖民地の對日關税は休日案に違反するとの抗議に對し二十六日松平大使より左の報告があつた

「英國は日本の抗議に對し考慮の餘地なし」と新くの如き英國の不信態度は來るべきシムラ會議の前途には何等期待し難いと憤慨してゐる

ナチス政府

社會的寄生者子孫絶滅法を公布

（ベルリン廿五日發國通）ナチス政府は近く社會的寄生者の子孫絶滅法を公布するに決定した、同法は大酒飲み、性的犯罪者、癩病者の生殖を不可能にするものである

米首席全權ハル氏 二十七日故國へ出發

（ロンドン廿五日發國通）アメリカ首席全權ハル氏は二十七日經濟會議閉會と共に歸國するが、モレー氏は殘留しリトヴイノフ氏と露西亞承認問題を協議する筈で、同問題は實現するものと觀られてゐる

八月上旬の陸軍異動 内命發せらる

（東京二十七日發電通）八月初めの陸軍異動は三長官會議五十數回二ケ月に亘る勝人事だつたが二十六日荒木陸相から上奏御裁可を得、内命が發せられた

第一旅團長　鳩彦王

中將に進級、近衞師團長に　參謀本部附陸軍少將　稔彦王

中將に進級、第二師團長に　中將　松井石根

臺灣軍司令官に　臺灣軍司令官　阿部信行

軍事參議官に　砲兵監中將　畑俊六

第十四師團長に　工兵監中將　杉原美代太郎

第七師團長に　第十四師團長　松木直亮

參謀本部附に　野戰砲兵學校長　入江仁六郎

砲兵監に　砲工學校長　岩越恒一

工兵監に　參謀本部第二部長　永田鐵山

第一旅團長に（東京）　參謀本部第三部長　小畑敏四郎

近衞第一旅團長に　兵器本廠附調査委員長　谷壽夫

近衞第二旅團長に　關東憲兵隊長　橋本虎之助

參謀本部總務部長に　兵器本廠附　磯谷廉介

參謀本部第二部長に　通信學校長　山田乙三

參謀本部第三部長に　兵器本廠附新聞班長　本間雅晴

歩兵第一聯隊長に　軍務局課員　鈴木貞一

兵器本廠附新聞班長に
~~~~~~

着衣にも事を缺く 哀れなる移民

新京市民の同情に訴へて 近く慰問品を募集

佳木斯移民は去る六月二十四日又もや頑強なる匪賊の襲撃を受け三名の犧牲者を出し家屋も燒却せられ、衣類全部掠奪せられたので、うち二十名の移民は全く着衣にも事を缺く哀れな「境遇」に置かれ、拓務省出張所および小河書記官から此ほど新京時局後援會に救濟方法の相談があつた、同後援會でも第一次移民として治安未だ全からざる北滿の地に活躍する同情措く能はぬものがあり且つは移民の將來に及ぼす影響も尠くないので、此際一般の同情によつて救濟慰問品を募集して一行の志氣を鼓吹し目的貫徹の一助にしやうと一決、二十八日午後七時から地方事務所內で「時局」後援會長、新京署長、新京聯合婦人會幹部ら集合してこれが方法その他について打合せをなすことになつた、慰問品は大体古洋服、古シャツ、古雜誌、文房具などとし廣く一般市民から募集されるはずである

長春縣附近を荒す 匪賊を逮捕す

附屬地憲兵隊の殊勳

去る二十四日附屬地憲兵分隊特高班では匪賊一名が新京市內に潜入、武器彈藥を購入中との報を聞き探査の結果長春縣十里堡、道家窩堡附近の高粱の中に晝間身を潜め、夜間は部落に押入る王喜增（匪名天一）匪團の一名と判明、二十五日午前九時同分隊中村班長以下十九名及新京警備隊野口伍長以下十名が匪團の潜伏場所に急行したが已に一味の大半は風を喰つて逃亡したあとで、逃げ後れた原籍山東省濟南村住所不定の譚洪儒のみを逮捕し掠奪品及び彈藥多數を押收して歸還した、逃亡せる殘餘の九名及び人質二名は目下日滿兩軍警協力嚴探中である

匪賊跳梁の 三角地帶が明るい平和鄕に

岫巖には日本語學校

滿洲國に對し一敵國の觀を爲してゐた匪賊の根據地三角地帶岫巖縣は昨年から本春にかける我軍の討伐により鄧鐵梅始め大小匪賊の一掃を見、今では見違へる樣な平和鄕となり、縣民一致王道政治を謳歌して居るが、最近の情報によれば日本語熱旺盛を極め縣城內に公費を以て日本語速成學校を設け、學ぶ者二百余名に達して居る、校長は縣內務局長兼務し、敎師には日本人通譯三名が充てられて居る

家裡敎代表 赴日の感想を語る

過般日本に赴き約二旬に亘つて仔細に日本朝野の實情を視察し此程歸來した「家裡」馮覲歐氏以下八代表は昨日新京滿人記者協會有志の希望に依り川崎情報處長の招きに應じ午後二時國務院內食堂に於て赴日感想談を發表した此日滿人記者出席者十數名、主人側は川崎情報處長外二名、關東軍からは特に宮脇少佐が列席し馮、常、祖以下各代表と約一時間半に亘つて有意義な意見交換をなしたが家裡代表諸氏赴日の感想を綜合すると大要左の如くである

吾々一行は日本に於て宮城に「伺候」し明治、大正兩帝の御陵に參拜し外務、陸軍、海軍、拓務、內務等各部を歷訪した外日本朝野各方面の熱誠なる歡迎を受け容易に見ることの出來ない日本帝國陸海軍の精粹參觀を許され兄弟以上の親愛を以て歡待された、此間吾々が最も強く心を打たれたのは日本國民が皇室を中心として熾烈且つ純正なる忠君愛國の精神に依つて團結し、鬪家氏族自強の傳統一された生活をして居ることである、中國に於ては曾つて孔孟の如き聖哲現れ高遠なる治國の教義を說いたが爾來數千年今日に至るまで孔孟の教は單なる教義であり理想として相傳へられたに過ぎない、然るに日本は十分これを消化し理想を化して現實となし古今東西に比類なき國民精神を完成したのである、最近に於ては隣邦中華民國は歐米思想の害毒を受けて支離滅裂寒心すべき「狀態」に立至つて居るが日本國民は歐米の長をとり短を捨て、藍より出でゝ藍より青き近代文化の王座を占めるに至つたのである而も、日本古來の國民精神は近代科學の發達に依て何等動搖せざるのみか益々其の精華を發揮して遂に世界を卒いるの慨を示して居るのである殊に日本國民の義勇奉公、挫強扶弱の精神は我家裡の根本精神と源を同じうして居るものである、吾々は夙にこれを聞いては居たが滿洲國成立以來自國の安危興亡を賭して我滿洲國の爲に絶大なる犧牲を拂ひ而も何等悔ゆるなき事實を見て始めて日本國民の大義大勇なるを知つた次第である、吾々は今回の見聞を國民に傳へ此感悲をもとゝして日滿兩國の精神的提携を促進し、東洋平和延いては世界平和確立の一路を「邁進」すべき決心と勇氣を持て居る

滿鐵各機關に 近く社旗を掲げる

滿鐵では各鐵道事務所、地方事務所及同社經營の諸工場に滿鐵旗を掲げ、殺到する新來者に一見、滿鐵であることを認識せしめる爲、屋上に滿鐵旗一流を直立することゝなつた

五、一五事件 陸軍側公判

篠原の訊問に入る

（東京二十七日發國通）五、一五事件陸軍側公判第二日は午前七時五十七分開廷、篠原市之助の訊問に移り國家改造意識を抱懷して實行運動に至つた經緯を問はれ

一君萬民は凡有るものを陛下に獻け奉る誠の心を指導原理とすることだ、一方有色人種をアングロ、サクソンの壓迫から解放し東西文明の渾然たる融和を確立すべきだと痛感した結果之が實現のためには現在の支配階級は絶對許さざるものだと述べ

被告は現在の社會狀態を何と認識してゐるか と問へば

對外的に我國の外交は國體觀念が缺除し百萬人と雖も我往かんとの飛躍無く屈辱史である

と述べ、次いでソヴイエートの滿蒙における横暴、米國外交の不信を痛撃、滿洲事變は正に試練だと思ふと言ひ次いで支那問題に就ては

支那のレーニンを倒し四億の民を生かして後にこそ眞の日支提携が出來る

と否滿火を吐く雄辯を續け、次いで對英對米問題に言及、自主的國策に邁進すべきを說きこれには先づ軟弱な支配階級を打倒せねばならぬと述べた 一方海軍公判も午前九時より開廷、引續き古賀中尉の訊問を行ひ古賀中尉は五、一五事件決行當日の模樣に就き詳述した

軍隊往來

二十七日午後四時步兵〇〇、〇隊混成〇隊將校以下〇〇〇名來京

二十七午後四時飛行第〇〇隊の〇〇〇名北方より來り同時三十發列車で南行した

二十七日午前飛行第〇〇隊兵員〇〇〇名南行

二十八日午前六時四十分着列車で飛行第〇〇〇隊員〇〇〇名來京

伊通河右岸に 水源地の調査

滿鐵の十萬人計畫

將來の水問題に備へるべく新京地方事務所では更に附屬地內十萬人給水計畫を立て目下頻に水源の調査に血眼となつてゐるが、此のほど奥津土木ほか三名は警備員八名「主任」通譯二名とともに伊通河右岸の水源調査を行つた、その結果報告によると同調査隊は八里堡、趙家屯を經て安龍泉の湧水箇所を調査し、次に北行分水嶺、黄家燒鍋を經て太平山に至り調査したが安龍山および太平山方面に對しては現在施工しつゝある第四水源地の如く流域廣汎ならず分水嶺近き故多量の「湧水」を望むことは無理なることと判明、寧ろ工業用として目下施工中の工業用水源地の對岸を求めるに如かぬ有樣である

傷害保險の 新らしい試み

新京にも代理店設置

傷害保險の新らしい計畫が日本海上保險會社によつて最近實施されることになつたが同保險は所謂怪我の保險で世がスピード化しいろんな機械用具が續出して來ると便利も增す代りに、人の怪我する機會も一層多からうといふので今頃の首都「新京」に取つては誠に時宜を得たものとして好評を博してゐる、保險は普通傷害と旅行傷害の二つに分れ普通傷害では職業によつてそれぞれ保險金も違ひ危險率の少いものほど掛金も多少安くすむ勘定である、殊に團体契約の如き一定の場所で澤山働いてゐる場合、それらの人々を一括して契約出來るので個人契約よりも便利な點が多く利用の向きも多いが、なほ保險金「全額」を支拂ふ程度のものでなくとも、被保險者が怪我をした場合にも治療手當を支給するといふ約束で新京では初めて總代理店として東五條通權太商會が當ることになつた

盛夏三題

…何か適切な銷夏法は？ 各方面に聽く（4）

お尋ね

一、今年の夏はどうしてお暮し遊ばされますか

二、避暑地にはどこが一番よいでせうか

三、何か適切な銷夏法はないものでせうか

○

財政部總務司長 星野直樹氏

一、平常の通り役所に出て居ります

二、避暑といふことを別に考へたことはありません、夏の日を送るには新京の如き結構な一つと思ひます、一日の仕事を終へての夕凉みなど少くとも日本ではこんな氣持にはなれません

三、暇があつたら運動をして汗を出すのが一番よいでせう

○

地方事務所庶務主任 小野寺兵右衛門氏

一、仕事に常に追はれてゐるので旅行等は出來ませんがせめて日曜日なりとも近郊の探勝を試みることに致します

二、避暑地としては海岸と山地に惠まれて居る旅順が良い樣に思ひます（旅順は海水浴、釣魚、山では背面砲台を始め戰跡あり）

三、銷夏法に就ては費用を度外視したる金持の避暑法は幾多もありませうが、私共が常に信念とする處は盛夏を征服するの氣慨を持つて常に奮鬪する、出來るだけ流汗方法を講ずること、曰く運動、旅行（徒步）等、終りて休息の氣分は又一層の妙味有之候、十數日前より脚氣を患ひ目下運動中止閉口仕り居り候

○

朝鮮銀行支店長 杉之原孝善氏

一、不相變多忙で避暑旅行の如き閑暇なし

二、大連、旅順邊の海岸若くは朝鮮金剛山

三、僕は朝のゴルフ、夕のテニス、夜の謠曲で汗を出すのを最も良き銷夏法としてゐます

○

新京署高等主任 渡邊警部

一、どうして暮すも、こうして暮すもありません、私共は朝から晚までお役所で執務事務の勉強です、故に避暑旅行なんて思つたこともありません

二、私共の爲にはお役所が何よりの避暑地です、朝から晚まで汗みどろになつて働かれるそのお役所こそは何よりの避暑適地です、故に海とか山とか河とかなんて考へたこともありません

三、うんと働いて働いて働き拔いて汗だく〳〵の中に其日其日を送ることこそ、私共勤務階級者にはほんとうに嬉しい何よりの銷夏法なのです、故に一般社會人にも此の私の銷夏法に準據して非常時日本のために働いて頂き度いと思ひます

○

新京第五區長 小澤禎吉郎氏

一、非常時日本の現在、此地に在つて國家及新京の爲め盡すより他念ありません

二、避暑地として滿洲では星ケ浦、夏家子、熊岳城でしやう

三、銷夏德として夜は早く寢朝早く起きて住居の周圍を清掃して、冷水浴をなし、心靜かに家業なり公職なりに從事すれば何んでもありません

○

首都警察廳警務科長 事務官 濱島紫朗氏

一、忙しく〳〵公務に從事致居候

二、從て避暑など考へも致し居らず候

三、小閑を扇風機の前にて讀書

東京市內の 十三小學校放火犯人

惡運盡き逮捕さる

（東京廿七日發國通）此春以來東京市內の小學校は既に十三校に及んで「放火」にあひ、小學校の恐怖時代を出現し、警視廳では嚴重犯人の捜査に當つて居たが二十七日午後三時半王子の岩淵第三尋常小學校に放火した少年あり、嚴探の結果終に逮捕するに至つたが、此少年は元廣島縣下小學校長現廣島某銀行集金人河野十九郎次男廣行（假名）と云ふ十六歲の少年で、十六回の犯行を自白した、同人は變質者で父は不良少年を子に持つては敎育者の本分が勤まらぬと辭職を投出して現在銀行の集金人に身を落したものだが呪ひの犯人廣行は自分が素行不良の爲父が小學校長を罷めるに至つた恨と消防ポンプの多く集ることの面白さから小學校の放火に興味を持ち始めたもので「幼少」の時腦膜炎を患つた爲非常な變質者となり放火に對しては得意の才能を有してゐる

國內司法警察制度の 充實を期す

治外法權撤廢問題に關しては日滿關係當局に於て種々協議を續行して居るが、滿洲國側としては先づ治外法權撤廢準備の第一階梯として國內の司法警察制度の充實確立を期する事となり目下司法部民政部主計處等關係當局間に於て具体案につき左の方針に基き協議を進めて居る

一、全滿殊に地方司法警察官の指導者たらしめるべく在滿日本外務省警察官中より選拔採用する

一、其他日本內地、朝鮮、臺灣等よりも指導警察官を招聘する

一、警察官增員に要する費用は來年豫算自然增收を見越し責任支出するか、或は臨時豫算を以てこれに充つ

一、日滿兩國間の交涉進めば十月頃には第一回數百名を選拔採用をなす

關東軍 後方主任會議

開催さる

關東軍後方主任會議（兵站主任）は二十七日午前九時大使館會議室に於て開催された、關東軍からは齋藤第一課長、各兵團からは各兵站主任及び錦州兵站司令部堀大佐出席し豫定の小磯參謀長の講演は武藤司令官病氣のため行はれず直に各兵團の實狀報告をなし議事に移つた

商船紐育 急行船

中米寄港計畫

（大阪廿七日發國通）大阪商船では近く現在パナマ、コロンビアに寄港するニューヨーク急行船を更に中米各港に寄港せしめる模樣である

學界の 權威を集めた 滿蒙學術調 查團來滿

（大連廿七日發國通）滿蒙學術調査研究團一行德永團長外十名は廿七日朝ほんこん丸で來連した、東洋文化開發の見地に立脚し、滿洲國內熱河省の自然科學に關する學術的研究をなすと云ふ觸込みだ、熱河の秘庫を學術的に解かんとする滿洲國文化開發の本格的な第一歩を此の一團に依つて踏み出すのであるが團員は學界の權威者揃ひで二ケ月半に亘る熱河打診の結果は注目に値するものがあらう、右に就き德永團長語る

今回の擧は學術調査研究が目的で、滿洲國政府の囑託事業で關東軍の後援を得陸軍、外務兩當局、滿鐵學術振興會、原田積善會等から補助出資を得まして、今回は其の第一回で每年繼續する積りです、調査研究の結果は滿洲國に報告するのですがこんな仕事は直ぐ結果は獲られるものでなく、報告時期も未定です

尙は一行は二十九日大連發途中奉天に立寄り三十一日新京着、種々打合せの後三日新京發北票口から漸次調査開始する

拓大對新京 蹴球戰

二十八日開催

最近の戰績、九戰五勝二敗二引分けといふ內地蹴球界の雄拓殖大學蹴球部マネヂャー近藤元由、主將稻葉善男兩氏以下一行十四名は初めての滿洲遠征として去る二十二日あめりか丸で大連着二十四日から同六日まで龍華、工華、全大連等と夫々華々しい試合を試み餘勢を驅つて今二十七日午後七時八卜で來京、明二十八日午後四時から西公園競技場で日滿聯合全新京選拔軍と晴の一戰を交へる事となつた、一行選手中には大連中出身四人、撫順中出身一人の滿洲出身者が五人も居り各地で歡迎されて居るが明日は相當激戰が豫想され一般蹴球ファン殊に滿人側の血を湧き立たせてゐる、一行のメンバー左の如し（入場料金二十錢）

△マネジャー近藤元由（大連一中出）馬淵芳樹（大垣中學出）

△主將稻葉善男（横濱二中出）

△選手長谷川巖（茨城中學出）篠崎武夫（北海道中學出）水谷巖（本郷中學出）三木秀雄（大連一中出）前田茂（横濱二中出）正司勝芳（三田中學出）小松三郎（廣島一中出）高橋英作（大垣中學出）宮野重道（大連一中出）文右尙（廣陵中學出）南任福（廣陵中學出）

四平街より

匪賊大敗

（四平街發）去る二十五日正午頃梨樹縣第八區三江口西北臥牛泡子の遼河々畔に於て匪賊來の急報に接して出動した同縣警察第一中隊の六十三名は匪首瀧海、六合等の合流匪賊團約二十名と遭遇激戰の後これを潰滅せしめた、戰場は慘憺たる狀景を現出匪首六合及賊二名は射殺され六名は河中に飛込み溺死体となつて浮上つた、警察隊側にも戰死一、負傷一の犧牲者を出すに至つた

驛小使の惡事

（四平街發）四平街驛荷物事務所の滿洲小使劉德潤（二二）は去る二十五日午後一時半頃同所勤務谷津某外五名分の七月分給料約二百圓の受領方を命ぜられたるを奇貨として驛會計係にて該金を受領着服同日午後二時半發の列車で鐵嶺に向つて逃走途中印形六人分は双廟子附近にて列車中より投棄南行中被害者の屆出により列車が開原驛に着くと共に同驛取締警官の爲め逮捕四平街署へ護送され目下嚴重取調中である

夏のよみもの

實話 深夜の呼聲（下）

由利健作　山本光文畫

淡々と話し込むやうに、檢事の聲は强くなかつた、彼の話すところによれば、あの時峠に差しかゝるまでは、そんな氣はなかつた

秋も末近い月が、木立を洩れて皎々と照つてゐた、その月明りで見る丸髷に結つた、卅を一寸出た許りの年増盛りの嫂、それにとに角村に住んでゐる自分の女房なごと違つて、町に嫁いで垢抜けがしてゐるその美しさは、彼の心を亂してしまつた

「嫂さん、一つ手をつないで行きませんか」思はず口に出てしまつた

人通りはなし、夜更けてはゐるし、女特有の恐怖心にかられたと見えて、嫂が急に走り出した！

「あゝ、嫂さん！」

と引止めるつもりで追ひかけると、相手は愈々足を早めた。と、走つてゐるうちに拍子を喰つて、嫂が石につまづくと、前のめりにバタリとつんのめつて轉んだ、

と、彼は（事こゝまで來た以上は、一類同志ではあるし、尙更らの事たゞでは濟まされまい）と、轉んだのを見た瞬間（それならいつその事にやつちまへ！）といふ氣になつてしまつた。

――暴行してしまつてから。後へは引かれないそこで首を締め殺してしまつた、それから山の奥へ持つて行つて、松の大木の下へ埋めてしまつたといふのである

檢事は夜中ながら、時をうつさず死体を埋め、たといふ場所へ實地檢證に出かけた

峠の現場近くに來ると、秋も末で、木の落葉がカサコソと鳴つて、もう眞夜中の鬼氣をはらんだ淒さである

檢事一行がその地點に來た時は二時

「こゝです」

妹婿は眞直ぐに木立ち這入つて、松の大木の根下を指した、人夫が早速掘出しにかゝつた、その時、誰からともなく、

「おい、誰か人が呼んでるやうだな」

といふので、耳を澄すと、上の方から、かすかではあるが

「オーイオーイ」

異様な聲が送られて來る、

「オイ、こつちを呼んでるのか」

氣味が悪い、人夫も掘るのをやめて、森然としてしまつた、そのうちに聲はだん〳〵迫つて來た。

「オーイ、そこで何をしてゐるんだ」

と呼んでゐることがわかつて來た、居合す者は顔色を失つて、お互に顔を見合した。

そのうちに、聲は木立の中に近づいて、現れて來たのは髯のぼう〳〵と生へた陽にやけて、やつれ切つて、見るからにボロ〳〵の着物につゝまれた四十がらみの、頰のげつそりした一人の男が、右手に焰のゆらぐ裸ローソクをかざして左手に枯枝杖をついてゐる――いよ〳〵もつて氣味の悪い人間である

男は一行の側へ近よつてくるなり、叱りつけるやうな調子で

「この眞夜中に、こゝで何をしてゐるんだ」

と訊ねた、で、事情を話すことになつた、檢事が話し終ると

「本當ですか、こ、この私が實はその殺された女房の良夫です」

事の意外に一行慄然とし、また啞然としてしまつた、事情がわかると、どうしてまたこんな所を歩いてゐたかを、檢事達はその男に訊ねた

女房を殺された自棄から、希望を失ひ、遂に家を失ひ炭坑の坑夫となつてしまつた、それがやつと、居なくなつた女房の七週忌が近づいてゐることを思ひ出して、それから炭坑を拔け出し、命日までに國にかへらうと、徒歩で一生懸命に峠にたどりついたが氣がついてみると、晝間ではどうも產れた土地の人目についても恥かしいと思つて、峠の茶店で、晝間ローソクを買つておいて夜をえらんで女房のゐなくなつた處を、さ迷つてゐたといふのであつた。

「さうか、そんなわけなら丁度いゝ、是非立ち會つてくれ」

といふことになつて、人夫を励まして掘り下げられた

出た！すでにそれは無論白骨と化してゐるが、髪の毛だけが黒々と生命あるものゝ如く水々しかつた、その時だつた、人夫の掘り下げるのを見つめてゐた良人が、ガバと土にひれ伏して、土にまみれた一握りの髪の毛を兩手にすくひあげると見る間に、その髪の毛に顔をうずめて、ワツと男泣きに泣き出した。一行は全く言葉なく、凄慘な夜の大氣の中に立ちつくしてしまつた、やつと泣きやむと

「お願ひでございます、どうかこの上はせめて裁判所までこの骨を抱かして行つてください」

檢事の許しをうけると、白骨を抱いて彼等は山を降りたのだつた

この事件に立會つた有澤檢事は、當時のことを回想してから結論した、

「當時、僕はチャキ〳〵の近代人を以て任じてゐたんだが、あの事件から靈魂の神秘といふものを、いや應なしに感ぜさせられたよ、尤もそれを力說して、よくからかはれたことがあるが――」

海の外から

□小形自動車リンク　ゴルフ界の寵兒小形ゴルフは最早や廢れて來たので目下米國では之に代る小形自動車リンクが出來て玩具自動車を一定の軌道を走らす遊戯が大流行

□船の煙筒に硝子の窓　伊太利に於る歐米定期航路船の煙筒には上層部に四つ五つの硝子張りの窓を設備してある、暴風雨の時の海上觀察の見通しを付ける爲めで、窓内には小規模のヴエランダや椅子を備へ付けてあつて天氣晴朗の時には乘客も亦希望に依り昇ることが出來ると

□機械的玩具の普及　米國では兒童に機械工業知識を植付ける爲め組立て式小形機械や玩具の代りに家庭に使用され出した

□衛生飛行機國際會議　萬國赤十字社聯盟では各國赤十字社代表者の多數が目下佛國巴里に滯在してゐる機會を利用し、此の程衛生執行委員會の會合を催したが席上來年度擧行の衛生飛行機國際會議の日取り並に方法に關して審議する所あつた、尙日定及內容は近く公表される筈

□世界兒童相愛運動　英國ウエールズに在るオール兒童協會では毎年五月十八日を「好意日」と定め、過去十二年間に亘つて世界少年に對する平和と好意を表徴する各種運動を繼續して來たが猶ほ進んで本旨の徹底と普及を計る爲、愈々來年度の「好意日」當日をトし、全世界に向つて世界兒童相愛のメツセージを放送することに決した

□ラヂオの家庭用務化　米國の金持ち社會では、廣大なる邸宅にマイクロホンを置いて各室にラヂオ裝置を施し主人や主婦又は子供や使用人に至るまで家庭用務に使用し出した

新刊紹介

▲卓球公論（七月號）燎原の勢で擴がり行く硬式卓球、國際卓球研究講座、國際卓球規則、醫學より見たる卓球、改惡された日本卓球規則、その他一部金二十錢大阪市港區石田元町卓球公論社發行

鮮魚小賣相場

品名	價	品名	價
活鯛	一四五	小鯛	七一
ニベ	三五	ヒラス	六〇
スヽキ	四〇	アジ	四二
カレイ	三六	ヒラメ	五二
ボラ	四二	カナガシラ	三〇
フカ	三五	イセヱビ	九六
コヱビ	四〇	ハモ	四三
アナゴ	四〇	アワビ	一〇〇
ハマグリ	一五	カマボコ	二六
目高カレ	四〇	舌	三〇
小市	三四	車エビ	一三五

連載漫畫

ヤク人『ナハナントマヲスゾ』
ベソ助『オヤガソウダンナシニツケタナマヘデ　マコトニオソマツデス』

ヤク人『ナントイフノダ』
ベソ助『ナキノベソスケトマヲシマス　ナノルタビニ　カナシウテナリマセヌ、アーン、アーン〳〵』

ヤク人『トシハ、イクツヂヤ』
ベソ助『ハテナ、コウツト』
ヤク人『トシヲ　ワスレルヤツガアルカ』

ベソ助『ヘイ、ソレデモ　マイネンカワリマスノデ　コウツト　コトシハイクツニナツタカシラ』
ヤク人『ノンキナヤツダ　ウフ、』

戀幻黑船往來

[illegible]上映決定

作 寺島柾史
畫 布施長春

第百十五回

死人の室（六）

黒白もわかぬ海中へ、いのちを賭して飛込んだ武七郎を追ふひまもなく、ロマンの典膳は淡い舷燈の光りで背後に迫つた人々をみた。

眞先にかけてくるのが髪を振亂した半裸體の男。それを追ひまくるのがだんぶくろの水兵の一團……。

……おのれ、箕浦だな！

典膳は、すぐにそれと認めた。が、その格之進は、いつどこでかすめたものか長い洋刀を持つてゐる。逃げながらそれを矢鱈に振廻してゐる。

……狂亂したな。

典膳は、すごい笑をもらした。武七郎とちがつて、格之進ごときにピストルを差向けるまでもないことだとおもつたのだ。

『箕浦！とまれ！』

怒鳴りながら、彼は威壓するやうに格之進の前に立ふさがつた。

『おう、典膳！おのれをさがしてをつたぞ。あ、あれをどこへ匿した？』

サーベルを振りながら、息せき切つて叫んだ。

『血迷ふたか箕浦！鎮まれ』

だが、それが耳へ入らず、格之進は血ばしつた眼をして、さらに典膳の身邊に迫つた。

『お、お愛をこれへ出せ。こ、これへ出せ！』

『青剃りめにたづねるがよい』

典膳は、格之進の背後に殺到した水兵の一團を眼をもつて制しながら案外おだやかな調子でいつた。

『いや、おのれが隠したのだ。出せ』

『出したら、おぬし、なんとする』

『お愛を連れてこの船を退散してやるわ』

『ワハハハ。自信も大がいにしろ。お愛は、おぬしごときとゆくものか。あの女はな、われらの女王さまだ。いつまでもこの船にゐてもらふよ。それとも、どうでも連れて行きたいなら、この典膳をまづ料理してからにしろ。おれの眼の黒いうちは、おぬしごときふ[illegible]武士に一指も觸れさせぬわ』

『う……ようし吐かしたな！いまこそおのれを退治るときだ。とい』

長いサーベルを中段にかまへて、じりじりと迫つた。

『面白い、一番かげらふ武士の素腕の相手となつて無れうをなぐさてやらうか』

落着き拂つて典膳も腰のサーベルを抜放つた。

『わアーツ！』

『わアーツ！』

ふたりを取かこんだ水兵たちはそのとき口々に何ごとかわめき立つた。

『来い』

『うぬ！』

ふたりは、一進一退じりじりと睨みあつてゐるが、氣合もろとも容易に踏込んできり結ばうともしない。持ち馴れぬサーベルがお互を躊躇せしめる。

甲板はひろい。星は降るやうにきらめいてゐる波の音、千鳥の鳴く聲……。

が、やがて隙を見出したか格之進は、

『エイツ！』

一聲鋭く踏こんでいつた。

チャリン……といふ、あざやかな刃の音。

受け流しておいて、典膳は、一旦それを引いたとおもふと、すぐに横なぐりに拂つた。

『……』

はたして、格之進はよろよろとなつた。

踏み込んで二の太刀をあびせやうとした典膳は、何とおもつたかそれを引いて、こんどは片足をあげて格之進の腰を蹴つた。

『まだ殺すには早い。こんな奴でも何かの役に立つかもしれぬ』悠々と洋刀の血を拭ひ鞘にをさめた。